

**【施策評価調査】**

施策名	2-1-1	正しい食生活づくり	84	施策目的	栄養バランスについて正しく理解し、実践します。 3食自分にあった量を食べ、適正体重を維持します。 1日1回は家族そろって食事をします。 ・生活習慣病の予防と改善のためには、正しい食習慣づくりの取り組みが必要となります。特にライフステージに併せた取り組みを実践していただくことが重要です。
担当部課	住民生活部 健康福祉課	担当 リーダー	健康づくり担当 荻原 敏子	施策内容	住民、学校(保育園・幼稚園を含む)、関係団体、行政が協力して、健康に生活するための食に対する正しい知識の普及と理解に努め、推進会議を中心とした、食と農による人づくりを展開します。(※高根沢町地域経営計画2006からの抜粋)
環境変化	食生活が乱れてきており、生活習慣病の増加やされる子どもが増えている。				

**■指標**

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①: 食事を1日3回規則正しく摂る人の割合(%)	生活習慣調査:H16.9実施	計画	80.0%	82.0%	85.0%	87.0%	90.0%
	79.3%	実績	↑ 90.90%	↓ 89.40%	→ 89.70%	↑ 89.90%	
指標②: 自分の適正体重を維持するカロリーや食事内容を知っている人の割合(%)	生活習慣調査:H16.9実施	計画	20.0%	22.0%	25.0%	28.0%	30.0%
	18.3%	実績	↑ 34.20%	→ 34.20%	↑ 66.10%	↑ 66.70%	
◆◇ 指標に関する特記事項 ◇◆							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	2,590,720	2,584,000	4,255,000	2,550,000	
	決算	2,185,810	2,476,705	3,818,393	2,293,534	

**■事務事業事後評価 21年度の検証**

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)			
①食に関する知識の普及事業費	当初 2,301,000	食事を1日3回食べる人の割合	A	3食バランスよく食べるという生活習慣を身につけることで、健康で自立した町民を増やすことができる。			
	決算 2,135,614	89.9% / 87.0%		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
②食育、地産地消推進事業費	当初 249,000	食育、地産地消推進会議開催	A	「ハートごはん条例」「食育、地産地消推進行動計画」の推進を行った。			
	決算 157,920	2回 / 2回		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
③	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
④	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
⑤	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

**■施策事後評価 21年度の検証**

	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	徐々に住民の意識は高まってきていると思われる。常勤的に栄養士がいることで、各年代での指導内容について系統的に事業展開を行うことができた。行政の職員だけでは広く知識を普及することは難しいが、食生活改善員や食育推進委員等、住民の立場で普及啓発を行うことで、広がりがでてる。	栄養士が給食センターと保健センターに配置されているため、お互い連携し効率のよい事業展開が必要。学校給食に関係する小中学校への食指導は給食センターで、乳幼児やその他の成人に対しては保健センターで行うこととする。食生活推進委員や食育推進委員などの地域で知識を広める人材を育成し、それぞれの活動のなかで啓発を行っていく。
総合評価	食育、地産地消推進行動計画により意欲的に施策展開されていると評価する。ただし、体験活動に係る他課との連携は行われているものの、農産物直売農家の活用など地産地消に係る部分の連携については、課題があると思われるので、今後は、現状を広く分析した上で、行動計画をより具現化するために、更なる積極的な施策展開を期待する。	